

機械器具 74 医薬品注入器
一般医療機器 手動式圧注入調節装置 (13100001)

MedCuff リューザブルインフューザー加圧バッグ

【警告】

- ・ 空気が封入されていない輸液バッグを使用すること。
- ・ やむなく空気が封入されている輸液バッグを使用する場合は、使用前に輸液バッグ内の空気を十分に抜いてから使用すること。[空気塞栓症の発生のおそれがあるため]

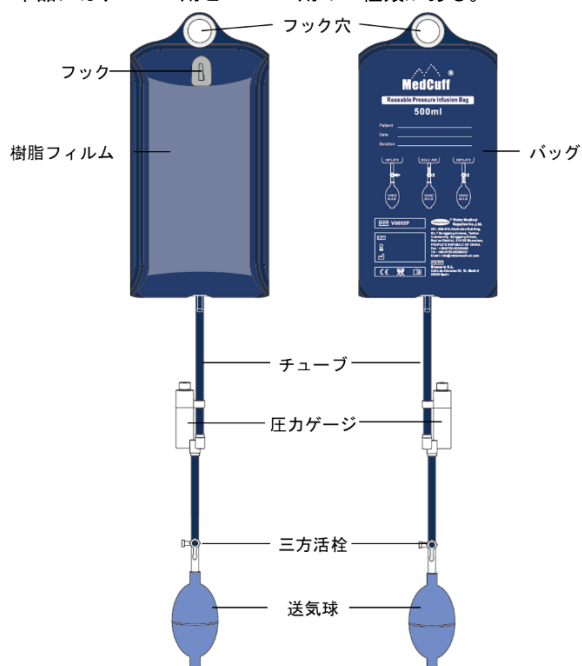
【禁忌・禁止】

- ・ 送気球以外の方法（電動ポンプ、院内配管等）で加圧を行わないこと。[急激な加圧により、バッグの破裂等の故障のおそれがあるため]
- ・ 400kPa（300mmHg）を超える加圧を行わないこと。[過剰な圧により、製品機能の低下及び破損のおそれがあるため]

【形状・構造及び原理等】

1. 形状・構造（代表図）

本品には、500ml 用と 1000ml 用の 2 種類がある。



2. 材質

送気球、チューブ：PVC（可塑剤：送気球/Hexamol® DINCH、チューブ/トリメリット酸トリオクチル）

3. 原理

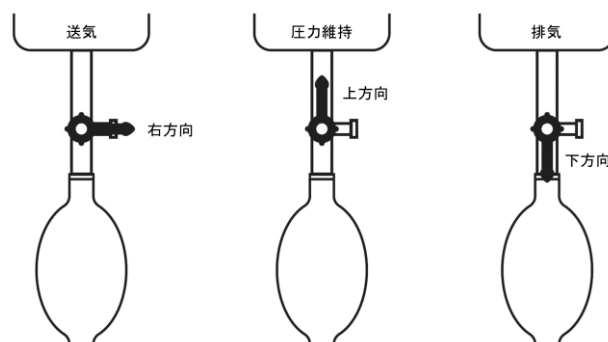
輸液用ソフトバッグをバッグと樹脂フィルムの間に挟み、送気球の操作によってバッグ内に空気を送り込む。バッグが膨張し輸液用ソフトバッグが加圧されることで輸液の滴下を調整する。

【使用目的又は効果】

輸液用ソフトバッグに外から一定圧を加えることによって、輸液の滴下を調整するバッグをいう。圧力は、手動（送気球）で発生させる。

【使用方法等】

1. 輸液用ソフトバッグをバッグと樹脂フィルムの間に入れる。
2. 輸液用ソフトバッグ上部の孔をフックに通す。
3. 本品のフック穴を IV ポール等に通して吊り下げる。
4. 三方活栓のレバーを右方向に向け、送気球からバッグへ送気できるようにする。
5. 一定圧の加圧が行われていることを圧力ゲージで確認する。
6. 必要な圧力に達したら三方活栓のレバーを上方向に向け、圧力を維持する。
7. 排気する時は三方活栓のレバーを下方向に向ける。排気を急ぐ場合はバッグを圧迫して排気を促進させる。



＜使用方法等に関連する使用上の注意＞

- ・ バッグを圧迫して排気を促進する際は、必ず本品から輸液用ソフトバッグを取り出して行うこと。又は輸液ラインが患者体内へと続いていないことを確認してから行うこと。
- ・ 輸液量の減少に伴い圧力が下がるので、圧力ゲージをこまめに確認し、必要に応じて加圧を行うこと。
- ・ 使用前に、本品に破損等がないか確認すること。破損等が確認された場合は使用しないこと。

【使用上の注意】

＜重要な基本的注意＞

- ・ 500ml 又は 1000ml 以外の輸液用ソフトバッグを使用しないこと。
- ・ 本品に、同時に複数の輸液用ソフトバッグを入れないこと。
- ・ 輸液用ソフトバッグに均一の圧がかかるように正確に装着すること。

【保管方法及び有効期間等】

1. 保管方法

水ぬれに注意し、高温又は湿度の高い場所、直射日光の当たる場所には保管しないこと。

2. 有効期間

3 年 [自己認証（当社データ）による]

（使用の期限は個包装に記載）

3. 耐用期間

以下の状態が確認された場合は使用限界である。

- ・破損、ひび割れ、変形等の劣化及びその兆候が見られた場合。
- ・空気漏れ等により、圧力ゲージが 40kPa（300mmHg）まで上昇しない場合。
- ・加圧後に脱気しても、圧力ゲージが元の位置に戻らない場合。

【保守・点検に係る事項】

＜清拭・消毒の方法＞

- ・清潔な水又は中性洗剤を含ませた柔らかい布で清拭すること。
- ・消毒する際は消毒用アルコール又は次亜塩素酸ナトリウムを含ませた柔らかい布で消毒すること。
- ・清拭、消毒後は乾いたほこりのない清潔な柔らかい布で拭き取るか、自然乾燥させること

（その他の注意事項）

- ・清拭、消毒の際には、チューブや圧力ゲージの内部に液体が入らないよう注意すること。またチューブや圧力ゲージは水などの液体には浸さないこと。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者

アズワン株式会社

TEL：0120-711-875

受付時間：午前 9：00～12：00、午後 1：00～5：30

（土日祝・弊社休業日は除く）

製造業者

Vistar Medical Supplies Co., Ltd.

ビスター メディカル サプライズ社

製造国名 中華人民共和国